

オイスカ10カ年計画の 取り組み



創立からの大きな流れを振り返ると、オイスカは、60年代にスタートしたアジア各国への開発団の派遣といった直接的な国際協力活動のほか、76年からは国連をはじめとする国際機関などと連携した「アジア太平洋地域開発青年フォーラム」を開催（現在は「グローバルユースフォーラム」に名称を変更）するなど、若者に向けた啓発活動にも積極的に取り組んできました。その結果、85年にはアジアの青年たちと共に、国連に「国際青年の年」制定を働きかけするなど、具体的な活動につながりました。そうした国際的な社会貢献活動が認められ、95年、アジア太平洋地域に本部を持つNGOとして

時代のニーズに合わせ 課題解決に挑戦

オイスカは1961年に創立され、飢饉に苦しむインドへの篤農家派遣を皮切りに、国際協力NGOの草分け的な存在として、アジア太平洋地域で活動を続けてきました。今年の10月に迎える60周年を目前にした世界は、コロナ禍や気候変動、自然災害の激化、国際情勢の緊迫化など、さまざまな課題が山積しており、オイスカは従来以上に力を発揮することが求められています。しかし、現在のオイスカは、活躍に先んじて「足元を固める」ことから始めなくてはならない状況にあり、現在、そのための計画の策定を進めています。10月に発表予定のオイスカ10カ年計画の大まかな方向性を、永石安明専務理事がご説明します。

では初の、国連経済社会理事会（ECOSOC）の総合諮問資格（カテゴリージェネラル）に昇格しました。そして2010年には、国連生物多様性条約事務局との間で、生物多様性の保護活動に関して、相互に協力して推進するための覚書が締結され、現在に至るまで続いています。

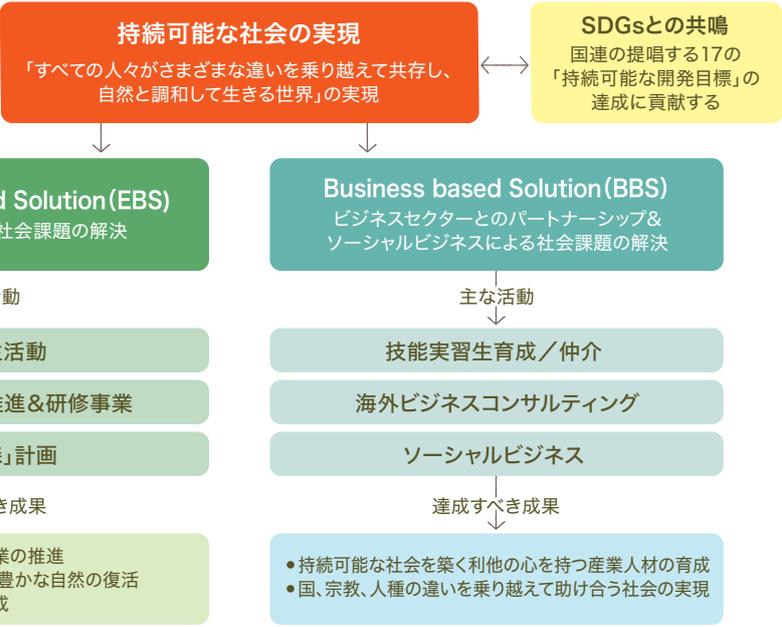
60年代は「Food First」、70年代は「Grassroots First」、80年代は「Love Green」、90年代は「Children's Forest Program」、2000年代に入ってから「ふるさとづくり」など、その時々々のニーズと状況の変化に応じたテーマを掲げ、社会課題の解決に取り組んできました。数々の実績の積み重ねは、ひとえに会員の皆さまをはじめとする支援者の方々、諸先輩方の努力、ご理解とご協力があった初めて成

し得たことであり、改めて感謝申し上げます。

先行き不透明な今、 なすべきことは

現在の世界を見渡すと、コロナ禍をはじめ、明るい兆しが見えにくい状況にあります。オイスカに関しても、今は「足元を固める」時だとお伝えしなければなりません。60年という年月が経過する間に、会員の高齢化も進み、世界一であった日本のODAも削減される中、オイスカの活動を下支えしていた補助金が廃止されるなど、オイスカを取り巻く環境も大きく変化。公益財団法人としての運営そのものを持続可能なものとし、次なる飛躍、発展を実現するためには、組織の見直しと自己改革が、今後10年間の最優先課題で

■目指す社会と2つの課題解決アプローチ



あるとの認識を深めています。オイスカでは、18年に初めて3カ年の第一次中期計画を策定し、21年には、5カ年の第二次中期計画を理事会の承認を得て

正式に策定しました。中期計画の導入は、現在策定準備を進めている「見直しと自己改革」を中心とした10ヵ年計画(2021-2030)につなげ、一次、

二次の中期計画における課題を10ヵ年計画に引き継いでいくためのものです。

この10ヵ年計画は、国連が提唱するSDGsの期間と重なり、目的や内容の面でも軌を一にするものです。特に近年は、インドネシア、中国・内モンゴル、ミャンマー、フィリピン、タイといった海外の現場や、宮城県名取市で実施した「海岸林再生プロジェクト」など、森林の再生や地域開発分野でのスケールの大きなプロジェクトで成果を上げており、その実践力には胸を張れると思っています。そうした観点でも、オイスカの活動を通じて、SDGsの達成に大きく貢献ができるものと考えています。

2つの社会課題解決アプローチを軸に

10ヵ年計画においては、オイスカが目指す社会をサステイナブルなカタチで築くためのアプローチとして、2つの手段を掲げています。

一つは、自然の力を活かして取り組む社会課題の解決アプローチ(Eco-System Based Solution: EBS)、もう一つは、

する活動としては、①森林再生などのEco-DRR(森林などの生態系を活用した防災・減災)の促進、②持続可能な農業(有機農業)の推進と、それに関わる人材育成、③「子供の森」計画などの環境教育の推進を図ることが挙げられます。EBSでは、自然の力を活かして営む産業の推進、持続可能な社会の礎となる豊かな自然の復活、自然を守り育てる人々の育成を達成目標としています。

もう一つは、ビジネスセクターとのパートナーシップとソーシャルビジネスによる社会課題の解決アプローチ(Business Based Solution: BBS)です。BBSに属する活動としては、①技能実習生をはじめとする多様な人材の育成を、企業との連携を通じて図る、②海外のオイスカネットワークを通じ、日本のビジネスセクターと海外のビジネスセクターとの連携を図る(開発コンサルティング事業を含む)、③開発途上国の地域社会開発を目的とした、ソーシャルビジネスの促進を図ることで

達成すべき成果としては、持続可能な社会を築く利他の心を持つ産業人材の育成に加え、国

や宗教、人種の違いを乗り越えて、助け合うことができる社会の実現を目指しています。

これらの目標を達成するためには、組織力の強化が求められます。過去においてどのような社会貢献の実績があるかと、今後の活動についてどのように素晴らしい構想を持っていくかと、活動の担い手である組織自体が存続・発展するという前提条件が満たされてこそ、活動が成立するということを再認識しなければなりません。組織のサステイナビリティ強化のための大きな要素として、「多角的な収入の増進」と「内外の不採算事業の見直し」による財政健全化を、早急に進めてまいります。

会員ならびに支援者の皆様のご関心は、オイスカがどのような社会貢献を展開するのかという点であるかと思われ、目下のところ、各現場、各公益事業ごとに具体的な活動内容をとりまとめ、10月6日に開催予定のオイスカ創立60周年記念行事(詳細は30ページに掲載)において、正式に発表する予定です。オンラインでの視聴も可能ですので、多くの方にご参加いただきたいと思います。